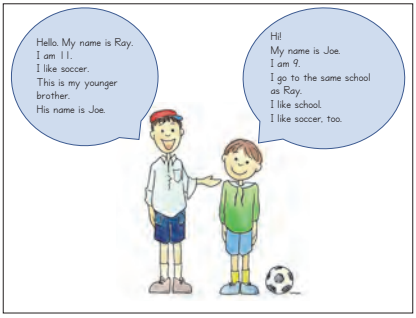
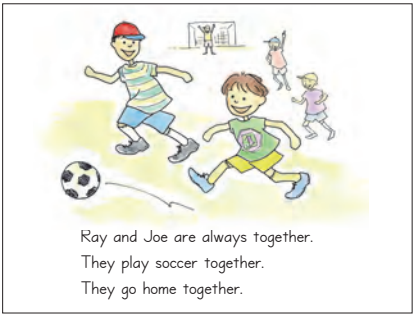
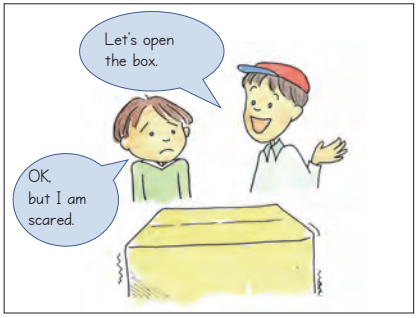
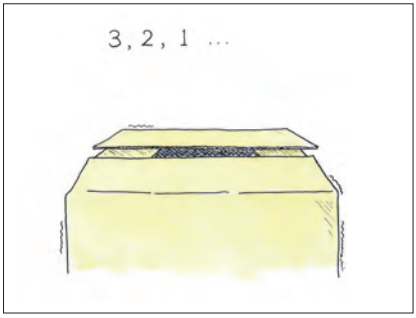
エピソード１：Brothers

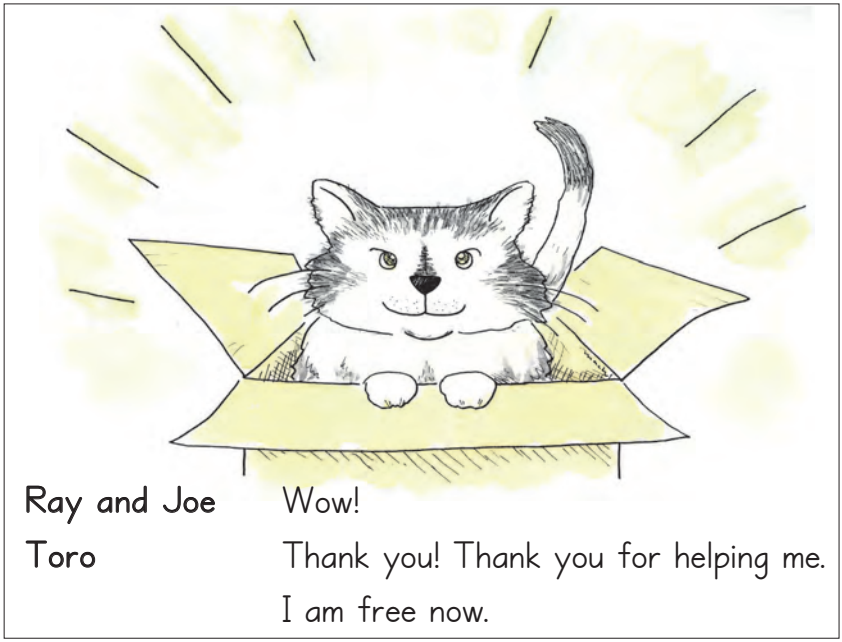


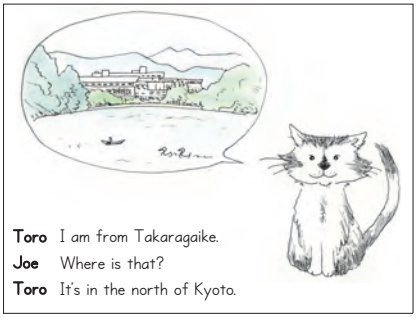


エピソード２：What's inside?









はじめに

絵本のストーリーテリングは、日本の小学校で英語の指導が始まって以来、すでに多くの小学校で行われています。絵本の魅力は、読み手を想像の世界に引き込み、自由な発想でものを考えさせることができることです。特に対象が低年齢であるほど、絵本を読むことによって発想が豊かになっていくことでしょう。母語で読むときと同じように英語で絵本を読む場合でも、児童はストーリーテリングを通して想像の世界で発想を広げることができ、自分の考えや感情を英語で表現したいと考えるようになります。私たち著者は、このような絵本の持つ魅力を最大限に活かし、英語を学ぶ日本の児童の英語学習への意欲を高め、英語で理解し発信したいという思いを英語習得へとつなげていく方法の模索が必要だと考えるようになりました。それが本書執筆の動機になっています。

英語絵本の読み聞かせをしてみたいと思っておられる小学校の先生は、実際とても多いと思います。「英語絵本は小学生を対象にした指導にふさわしい」と説き、「こんな絵本がいいからぜひ使いましょう」と勧め、「読み聞かせはこんな風に」という研修や本は巷に多く見られるようになってきました。指導要領にも英語絵本の使用は強く推奨されているからでしょう。しかし、具体的にどんな目標を立て、単元計画を作り、指導を行い、さらに評価をするかということは、日本の小学校の外国語教育の現場では、今まで誰も教えてくれませんでした。

そこで本書は、絵本のストーリーテリングに伴う活動を使って小学生の英語能力を効果的に育成するための Learning by Storytelling（LBS）指導モデルの提案を目的として書かれました。この指導モデルの理論的背景のみならず、この指導モデルを基に考案した高学年外国語科における読み書き指導、中学年外国語活動での発表ややり取りの指導、低学年の英語劇による英語音声に慣れ親しむことのできる指導の手順を、わかりやすく解説しながら提示しています。また、数年にわたって何百人もの児童を教えながら実践経験を培ってきた 3 人の現場の指導者と、30 年以上の長きにわたり英語教育の専門分野で研究を続けてきた大学教員とが協働して執筆しています。

本書は 3 部構成となっています。第 1 部は、英語圏におけるストーリー

テリングの位置づけと、それに関して著者らが参加したストーリーテリングのワークショップの報告とともに、そこから得られた示唆について説明しています。また、日本の英語教育における英語指導の方針について理論や先行研究に言及し、そこから著者が考案したLBS指導モデルの考え方について紹介しています。第2部はストーリーテリング活動による英語指導の実践例を、3つの学年層別にあげています。高学年のストーリーテリング活動を英語の読み書き指導へと応用する具体的な方法や、中学年および低学年のためのストーリーテリング活動とそこから発展させた英語劇の指導について実践報告をしています。第3部は、ストーリーテリングと小学校英語の評価について述べています。ルーブリックによるパフォーマンス評価方法の提示に加え、児童の振り返りの評価方法と指導への応用について解説をしています。

日本の小学校では2020年から5、6年生は英語が必修教科となり、年間70時間を英語の授業に充てることになりました。また英語による読み書き指導も始まりました。英語に触れる頻度を高める目的で、モジュール学習（短時間学習）の時間を利用して、絵本のストーリーテリングを行っている学校も少なくありません。小学校の外国語活動の一環として行われているストーリーテリングは、もともと私たちの社会でも英語圏の社会でも文化の伝承の役割も果たしてきました。また英語圏の社会では、大人をも対象とした娯楽のためのものであり、ときには心を癒す役目を果たし、ビジネスを成功させるためのコミュニケーションスキルの訓練のためでもあるのです。このようにストーリーテリング活動を様々な角度から理解した上で書かれた本書には、四つの特長があります。

一つ目の特長は、ここで提案する活動は実際に小学校の授業で行われ、その効果が得られたものを提示していることです。小学校5、6年児童のストーリーテリングに伴う活動（第2部第4章）だけでなく、中学年（第2部第5章）および低学年のストーリーテリングを英語劇の実践のために活用する指導法（第2部第6章）について、実際使った指導案を解説し、活動例を提示しながら述べています。また、低学年児童のために使った英語劇の台本も掲載しています。

二つ目は、日本の小学生に適した絵本を創作する意義と、創作の要点について説明しながら、著者が書き下ろした“Toro’s Story”を使ったストーリーテリング活動を紹介しているという特長です。小学生児童と同年代の子ども

たちが主人公で、児童にとって身近な事柄や日常生活を内容に盛り込んだ創作絵本を使ったストーリーテリング活動は、児童を物語の世界に引き込み、自由に発想を広げることを助けました。この絵本は、内容という点では高学年児童の認知レベルに合わせながら、英語能力という点ではまだ初歩レベルの児童に合わせて書かれているため、日本の小学生が無理なく英語を学習できます。“Toro’s Story” は、実際の授業で使うために全ページをダウンロードできるようになっています。

さらに、英語の知識や運用能力が十分でない低学年児童が絵本のストーリーテリングを楽しむことができる創作絵本 “Takoyaki Boy” も紹介しています。“Toro’s Story” と “Takoyaki Boy” は、今後の英語を学ぶ小学生児童のための日本版多読教材のモデルになる可能性を含んでいます。

三つ目の特長は、“Toro’s Story” や他の絵本を使って指導したときに、英語の知識を児童に確実に身につけさせる目的で作成したワークシートと学習の様子を観察することのできる振り返りシートを紹介し、ワークシートの方は、ダウンロードして使えるようになっている点です。これらのワークシートと “Toro’s Story” の絵本は PowerPoint で提供しているので、児童のレベルに合わせてカスタマイズすることも可能です。

四つ目の特長は、ストーリーテリングに伴う活動を通して、小学生の英語能力の評価方法である、ルーブリックを使ったパフォーマンス評価についても解説している点です。評価に関しては、児童による振り返りの形式とその活用方法についても述べています。さらに、振り返りに書かれている自由記述の内容を分析し、児童のつまずきを明らかにして英語を正確に運用できる能力を獲得させ、英語学習への意欲を駆り立てるように導く方法の提案も行っています。

中学英語に連携した小学校でのより良い英語指導のため、理論や先行研究に裏づけられた活動例とその指導計画書、評価方法の実例を多くの小学校教員の皆様の英語指導に役立てていただきたいと願っております。今後、本書をお読みいただく方々から、ご意見ご感想を賜れましたら幸いです。

2022 年 9 月

編著者　**小野尚美　田縁眞弓**

目　次

はじめに　iii
ダウンロード資料について　x

第1部 ストーリーテリングと英語指導 …… 1

第1章 語りの文化としてのストーリーテリング …… 2
英語圏のストーリーテリング …… 2
Andrea Gibbs 氏によるストーリーテリングワークショップ　4
Scottish Storytelling Centre でのワークショップ　10
ストーリーテリングと日本の小学校英語 …… 14
読み聞かせを使った言語学習　14
ワークショップから得られた指導へのヒント　15

第2章 小学校での絵本を使った英語指導 …… 18
絵本の英語指導への活用 …… 18
ストーリーテリング――文および談話レベルの理解への橋渡し …… 19
Emergent Literacy という考え方　20
Independent Reading & Writing とストーリーテリング活動 …… 22
読解理論から考えるストーリーテリング活動　22
読解から書く活動へ　23
先行研究から見るストーリーテリング活動の効果 …… 24
ストーリーテリングに伴う活動の指導手順 …… 26
基本的な指導手順　26
教員とのインタラクション　28
場面の並べ替え活動　29
リテリング活動　30
発信活動　32
ワークシートによる定着とテクストの音読　33
ストーリーテリング活動から英語で書く活動へ（高学年） …… 33
書く活動を進める 4 つの指導段階　33
タブレット端末の活用方法　37

ストーリーテリング活動から英語劇へ（中学年および低学年） … 37
外国語活動の目標と英語劇　37
英語劇で身につける「コミュニケーション能力」　38
中学年・低学年のリテラシー発現　39

第3章 **文脈を活用した4技能統合型学習法 Learning by Storytelling** … 41
絵本を活用した小学生のための英語指導モデル … 41
Learning by Storytelling 指導モデルの4つの指導手順のまとめ　41
LBS 指導モデルの特長　42
LBS 指導モデルの6つのポイント　43

第2部 **ストーリーテリング活動による英語指導の実践** … 49

第4章 **LBS 指導モデルの高学年の実践例** … 50
授業について … 50
指導時間　50
ストーリー教材　51
単元計画　53
LBS 指導モデルの進め方——単元A（5年生） … 54
教員とのインタラクション——エピソード1　54
並べ替え活動とリテリング活動——エピソード2　61
発信活動——エピソード3〜6　70
LBS 指導モデルの進め方——単元B（6年生） … 80
ワークシートを使った活動——エピソード7〜12　80
LBS 指導と ICT　94
LBS ストーリーテリングと評価 … 95
振り返りシート　96
パフォーマンス評価　97
章末資料 … 100

第5章 LBS 指導モデルの中学年の実践例 …… 102
授業について …… 102
指導時間　102
ストーリー教材　103
単元計画　103
LBS 指導モデルの進め方 …… 105
教員とのインタラクション　105
場面の並べ替え活動　106
リテリング活動　106
発信活動　107
“In the Autumn Forest”――オリジナルページ作成　107
“Momotaro”――インタラクションから英語劇まで　111
章末資料 …… 119

第6章 LBS 指導モデルの低学年の実践例 …… 125
2 年生の授業について …… 125
指導時間　125
ストーリー教材　126
単元計画　127
LBS 指導モデルの進め方（2 年生）…… 129
教員とのインタラクション　129
場面の並べ替え活動　129
リテリング活動　129
発信活動　130
ワークシートの活用　131
ICT の活用　134
英語劇の評価方法　134
中学年につなげるための文字指導　135
1 年生の授業について …… 135
指導時間　135
ストーリー教材　136
1 年生への LBS 指導モデルに基づく教え方 …… 136
Takoyaki Boy のお話　137
章末資料 …… 140

第3部 ストーリーテリングと小学校英語の評価 …… 151

第7章 リテラシー教育の視点に基づく評価 …… 152

英語運用能力の正確さと流暢さの評価 …… 152

ストーリーテリングに伴う活動と評価の在り方 …… 152

正確さと流暢さは言語習得のための車の両輪　154

英語のつまずきに注目する指導の重要性 …… 155

児童の振り返りから読み取る「発現しているリテラシー」　155

複言語・複文化主義の理念と「振り返り」　159

第8章 振り返りから指導法を探究する視点 An Inquiry View into Learning …… 161

振り返り内容の読み解き …… 161

各学年の振り返りの読み解きのポイント …… 163

Toro's Story のエピソード 3 を読んだ後の 5 年生児童の例　164

Toro's Story のエピソード 12 を読んだ後の 6 年生児童の例　167

ストーリーテリング活動をした後の中学年児童の例　170

ストーリーテリング活動と英語劇の後の低学年児童の例　174

おわりに　177

謝　辞　180

参考文献　181

索　引　184

著者紹介　186

【指標形式の目標】

聞くこと	ウ　ゆっくりはっきりと話されれば、日常生活に関する身近で簡単な事柄について、短い話の概要を捉えることができるようにする。
話すこと（発表）	ウ　身近で簡単な事柄について、伝えようとする内容を整理した上で、自分の考えや気持ちなどを、簡単な語句や基本的な表現を用いて話すことができるようにする。
読むこと	イ　音声で十分に慣れ親しんだ簡単な語句や基本的な表現がわかるようにする。
書くこと	イ　自分のことや身近で簡単な事柄について、例文を参考に、音声で十分に慣れ親しんだ簡単な語句や基本的な表現を用いて書くことができるようにする。

（文部科学省、2017、p.75）

各時間の単元計画は、章末資料に示しています。

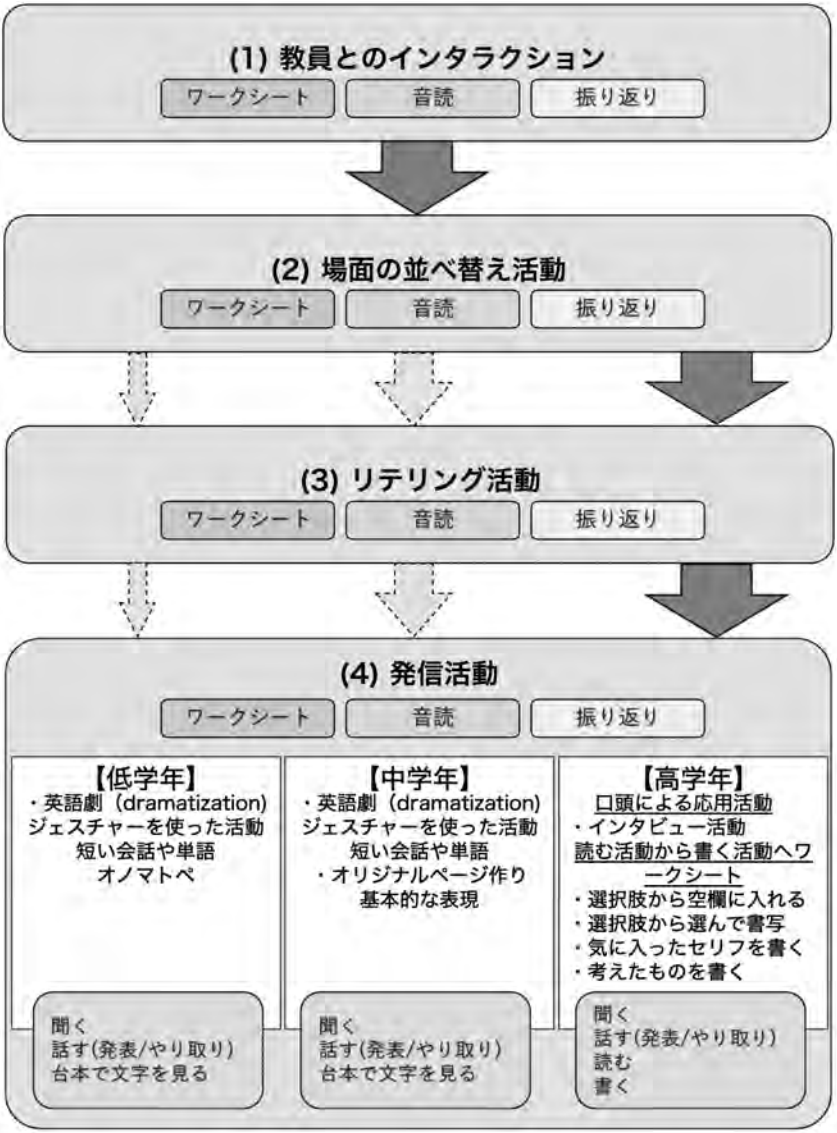
LBS 指導モデルの進め方――単元 A（5 年生）

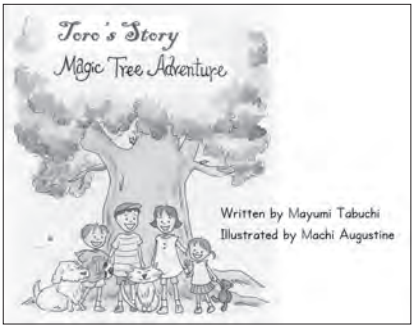
ここでは、“Toro’s Story” 単元 A（エピソード 1 から 6 まで）の LBS 指導モデルに沿った指導の実践内容を提示します。ストーリーテリングに伴う活動の基本は（1）教員とのインタラクション、（2）場面の並べ替え活動、（3）リテリング活動、（4）発信活動となっています。ここから、絵本の各ページを示し、どのようなインタラクションを行い、どんな活動を展開したか解説していきます。次ページの図は、ストーリーテリングに伴う活動の指導手順の図です。第 2 章で掲載したものと同じものですが、これに沿って指導の流れを確認してください。

教員とのインタラクション――エピソード 1

LBS 第 1 ポイント（場面を活用しよう！）と第 2 ポイント（子どもの知っていることから始めよう！）にあるように、絵本の挿絵を活用して内容について考えさせます。児童がすでに知っていることや児童の関心事を探り、それを活用して、絵本を読む前にウォームアップ活動から始めましょう。

ストーリーテリングに伴う活動の指導手順





T： Let's start story time. It's a new story.
What can you see in this picture?

T： Do you see a dog?

Ss：YES.

T：（犬を指さしながら）A dog is here.

T： What else？ What other animals?（児童から cat という声が出るのを待って）Yes.（猫を指す）

T： You see children, too.
How many children do you see?
Where are they? They are in front of a small tree?（児童の No という声を待って）No. A big tree.

T：（表示された文字タイトルの英語を指しながら）Can you read the title?
The title is _____.（一緒に声を出して読むようにする）

T： Shall we read the story?

（ゆっくりとみんなを見回しながら、ストーリーテリングを始める準備ができているか確認してから読み始める）

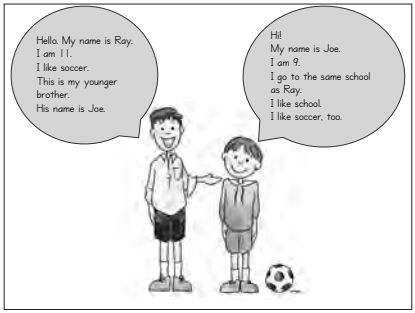
表紙を見てやり取りすることから、ストーリーテリングは始まっています。上記の教員の発話例を読んでどう思いますか。こんなにたくさん英語の質問はできない、やはり、ストーリーテリングはハードルが高すぎると思う先生もおられるかもしれません。ここで示しているのは、専科の英語の教員や ALT が読み始めるときの例です。これだけの量の英語の発話が必ず必要というわけではありません。これはまだ "Toro's Story" の表紙で、本文ではないので紙面の文字を読む活動は始まってはいません。しかし、ここで、絵のイラストからこのストーリーの内容を想像させ、絵本の世界へ子どもたちを引き込むようにするためのインタラクションなのです。言わばテクストを読む前のウォームアップ（英語で読むための準備運動）と言えるでしょうか。リテラシーはすでに発現しているので、子どもたちがすでに知っていることに

ついて、絵を示しながら簡単なやり取りをします。

子どもたちは単語レベルでも、知っていることを答えればいいんだという安心感を持ちます。また、絵の細部に注意を向けながら、これから始まるストーリーへの興味を喚起するようにしていきましょう。

エピソード１：Brothers

LBS 第２ポイント（子どもの知っていることから始めよう！）にあるように、児童がすでに知っていることや関心事を探り、それを新しいことの学びにつなげるように指導しましょう。



左の男の子を指さしながらそのままセリフを読む。その後、児童の方を向いて、What's his name? と確認してもよい。

次に、右の男の子を指さしながらそのままセリフを読む。

T：What's his name?（his を強調しながら）That's right. So they are Ray and Joe.

T：How old are they?　Ray is?（止めて、続きは児童に言わせる）

T：And, how old are you?（児童にも自分たちの年齢を訊ねる）

T：Oh, you and Ray are the same age.（2 人を指し）They are ...？

ここは、brothers が期待される答えだが、教員が自身やクラスの児童を使ったスモールトークで、brothers または sisters という意味を理解させるとよい。例えば、以下のようなやり取りが可能である。I have two brothers. Takuto has one brother.（皆が兄弟がいることを知っている児童の一人を指しながら、例にあげる）

ここではたくさんの読み聞かせ上級テクニックが見られます。一番特徴的なのは、ストーリーに出てくる情報を児童たちの知っていること、すなわち、児童の「自分ごと」に関連させ、絵本の内容に注目するよう導いていること